

まちの小児科として長年親しまれてきた洋館のリフォームである。内部に新設した間仕切り壁に耐力を負担させることで、開口部をふんだんにとったオリジナルの外観をそのままの形で守っている。天井の高い豊かな内部空間も、新築では得にくい空間の魅力である。

リフォーム前後の写真

リフォーム前 a



リフォーム前 b



リフォーム前 c



リフォーム後 E

3方切妻屋根のファサード
外観を生かし内部で耐震壁補強



レンガの外周基礎



リフォーム後 B

鶴の天井飾りは小児科の名残 抜けない柱は残しタイルを貼り照明を取付



リフォーム後 A

医院で使われていた品々が並ぶ飾り棚



リフォーム後 D

階段の架け替えによってできたホール



リフォーム後 C

診察室と待合室をつなげ開放的なLDK空間に 壁は新築当時の漆喰を再現



大正時代の名残をできる限り再利用

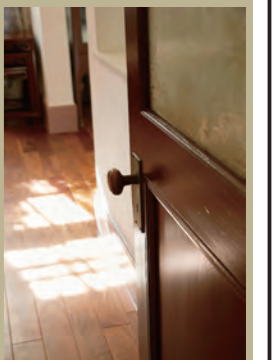
トグルスイッチ



巾木コンセント



ドアノブ・ドア



設計監修: 小川真樹建築総合計画 + 山下博満

リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想・満足度/住宅の価値を向上させた内容など

関東大震災の直後に建てられた、三方切妻屋根の小児科医院。商店街のランドマークとして地域の方々に親しまれていた。孫にあたる現所有者が、建物を次の世代へと伝えたいとの思いから住宅への再生を希望。左官で作られた天井飾りの鶴、照明器具、真鍮の取っ手、木製の窓、家具等できる限り既存を残す方向でリフォームを計画した。外周部はレンガ基礎のうえ窓が多く、また、市の景観重要建築物等に指定されているため外観の変更が難しく、外周部での耐震補強は困難であった。そのため内部に耐力壁を新設し、内側で補強する計画とした。

性能向上の特性
耐震性能、耐久性能、
バリアフリー性能、温熱性能

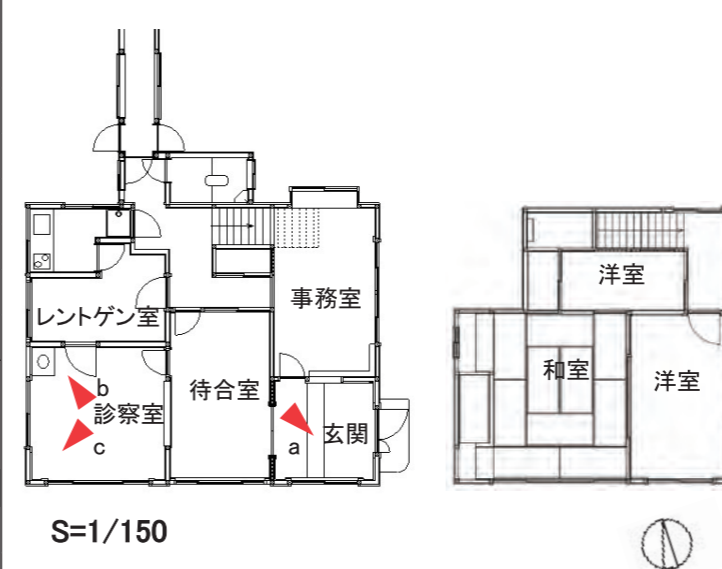
特に配慮した事項
内部に耐震壁を設け耐震補強・白蟻被害部分の補修・床下に断熱材新設

データ

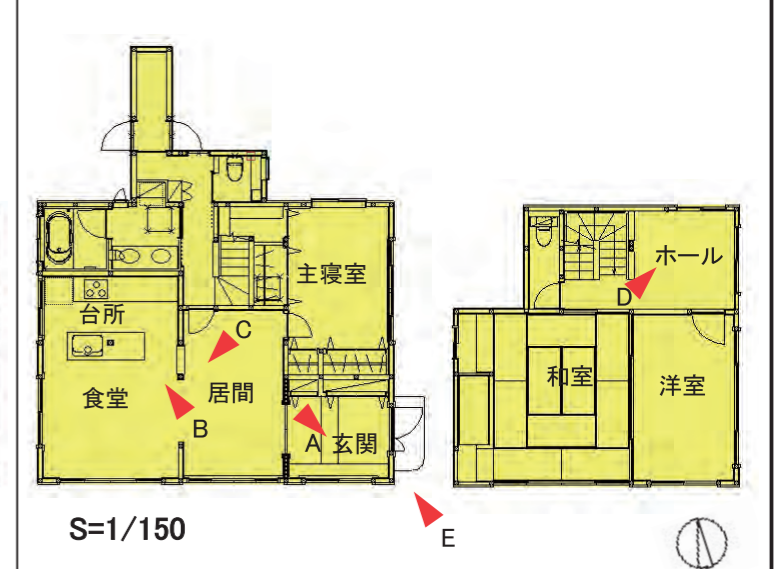
所在地	神奈川県鎌倉市	新築竣工年	1924 年	築後年数	93 年	施工期間	180 日間
該当工事床面積	121 m ²	総工事床面積	121 m ²	該当部分工事費	3480 万円	総工事費	3480 万円
居住者構成	65 歳以上: 0 人 / 15 ~ 64 歳: 3 人 / 15 歳未満: 0 人						

た。LDK は広く、アイランドキッチンにしたいとの要望で、抜けない柱を残しながら開放感をもたせた。LDK から庭へ出られるよう腰窓を掃き出し窓に変更、既存同様の木製窓を新設した。階段の架け替えにより、2階に日当たりの良いホールが生まれた。この建物の新築当時から代々かかわってきたガラス屋、経師屋等、地元業者も多数参加。ご先祖の思いを汲み、住み継ぐ決意をされた施主夫妻。「木の窓は隙間もあり大変だが、自分達の価値感を変えれば良いと気づいた。次の世代にこの家を引き継ぐことができて良かった。」

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



リフォーム部位: ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ ■階段/ ■玄関/ ■インテリア/ □マツヨリ共用部分/ □その他